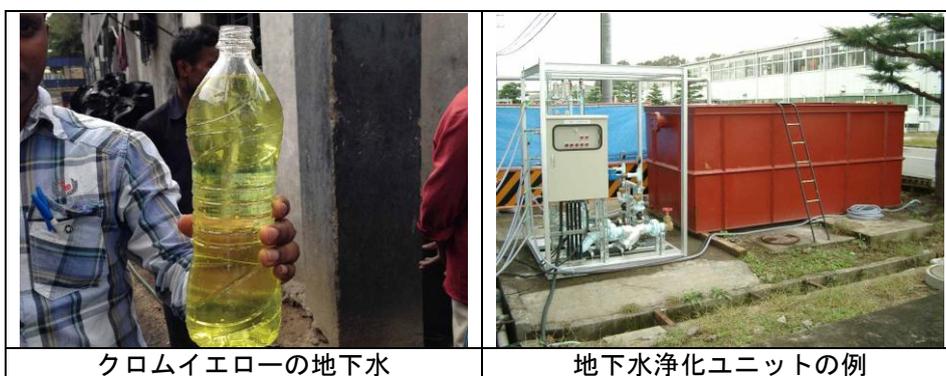


## 下町の技術がインドに安全な地下水をもたらす

東京・渋谷区の中小企業と JICA が連携して挑戦

インド国での安全な地下水の実現に向け、国際協力機構（JICA）は、2014年1月31日、東京渋谷区にある地質調査を専門とするアサヒ地水探査株式会社と契約し、インド国で「地下水浄化」に関する普及・実証事業（※）を進めることになりました。



インド国は、著しい経済発展の一方で水資源の枯渇と工業化に伴った地下水の汚染問題が甚大な健康被害を発生させており、現在、ナショナルミッションとしてガンジス川の浄化や汚染放棄地の環境浄化に取り組んでいます。特に、同国は世界有数のクロム生産国であり、クロムを利用した革なめし工場やメッキ工場が著しく発達しています。それら工場で使用された六価クロムを含む多種の有害物質による極めて高濃度かつ広範な地下水汚染が発生しており、様々な汚染濃度や分布状況にも対応し得る浄化対策が急務となっています。

本事業は、インド国における地下水浄化実証事業による健全な地下水環境の復元を目標として実施されます。この健全な地下水環境の復元は、一次的なものでは意味がなく、恒久的に持続されるべきものであると考えます。この健全な地下水環境の復元と維持を最終目標とし、単なる地下水浄化ツールの提供ではなく、事業対象地のアセスメントを通じた汚染状態や汚染原因、そして今後の管理体制等も考慮した上での、最適化した低環境負荷型の浄化ユニットの提案を目指します。

この目玉となるのは、地下水浄化にかかるいくつかの技術を統合して、低環境負荷型の浄化ユニットを形成する事です。中核となる技術は、食品材料からなる安心・安全な「地下水浄化栄養剤」による自然の自浄作用を促進させるバイオレメディエーション（生物浄化）技術です。この技術は、六価クロムのみならず、メッキ工場等でも大量の使用が懸念される揮発性有機化合物と言った物質の浄化も可能な技術です。さらに現地での汚染状況を考慮して、光触媒による前処理や地下水シミュレーションを併用した汚染水管理等も提案し、本事業の実施地であるゴア州サルセットにおける

最適な浄化方針を提示し、将来的に同地の住民に安全な水環境を提供することが期待されています。

アサヒ地水探査株式会社は、将来的にもインド国内における地下水浄化事業のビジネス展開を検討しており、本事業を成功させ、今後予定されている地下水浄化にかかるインド国政府の公共事業や工場等からの発注業務を受注するビジネスモデルを形成する予定です。

※この取組は、日本の中小企業を対象に、JICA が本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。この事業では、日本の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたものです。JICA は、引き続き、支援国の開発課題解決に資する日本の優れた技術の普及を支援していきます。

以上